

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500675		
法人名	有限会社 介護センター田中		
事業所名	グループホーム渚園		
所在地	津市柳山津興382-4		
自己評価作成日	平成28年10月10日	評価結果市町提出日	平成28年12月

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivogyoCd=2470500675-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成28年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝、職員と一緒に掃除、洗濯、食材の買い物から料理作りも参加する。各自ができる範囲で、得意な事を行い、役割を持つことで自信を取り戻し、メリハリのある生活リズムを作り、毎日が張り合いのあるものにしていただけるよう、支援している。
出来る事はしていただき、出来ない事をお手伝いさせていただく。という様に、一人一人のペースや思い、考えを大切にしながら支援することを心がけている。
食事は、すべて園内で職員と利用様が手作りをし、季節感を大切にしたり、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べていただけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

16年目を迎える歴史のある事業所で、地域住民との関わりや交流する機会も多く、恵まれた生活環境の中で暮らしている。利用者家族との関わりを大切にする事業所で信頼関係も深く、毎年、利用者・家族・職員との一泊旅行を全員に近い参加で実施している。片方のユニットでは、利用者全員が集合して脳トレレクリエーションを毎日定例で行っており、利用者同士や職員とのより良いコミュニケーション作りの場となっている。管理者・職員は、会話の絶えない家庭的な雰囲気の生活の場づくりを目指し、利用者の目線で支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で「自分らしく暮らす」を理念とし、利用者主体を心がけ、実践している。	「自分らしく暮らす」を事業所の理念とし、管理者と職員が理念を共有しながら利用者の目線で支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会、自治会の行事、地域の祭り等に参加したり、地域の方々とふれあいを行っている。	自治会に加入し、地域の行事・祭り・避難訓練等に参加している。また、地域のボランティアや保育園児との交流、中学生の職場体験の受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に頼まれて、認知症についての講演をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、自治会役員、家族会代表に来ていただき、開催している。会議での意見は職員へ伝え、サービス向上に活かしている。	利用者家族代表、自治会長、地域住民、市役所職員が出席し、2カ月に1回運営推進会議を開催している。事業所からの報告や利用者の状況説明、市職員からの報告、家族からの意見や提案等を事業所の運営に活かしている。	運営推進会議を事業所について地域の方々により理解していただく機会と考え、地域の有識者の協力や参加で、地域の情報を得たり、専門的な知識を学習する場となる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の取り組みを理解してもらっている。	管理者が県の地域密着型サービス協議会の代表者で県社協や市の委員会の役員に就任していて、市担当者との連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけない事を職員はよく理解しており、日頃から世の中の出来事についても話し合っている。	身体拘束や言葉による拘束についての研修や話し合いは行っている。目配り、気配り、利用者への丁寧な言葉かけに心掛けている。玄関の施錠はしておらず、利用者や家族が気軽に入出入り出来るようにしてある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、身体拘束をしてはいけないことを理解しており、ミーティング時にも話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、成年後見制度をきちんと理解し、権利擁護を守っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改正の際は、十分理解し、納得していただけるよう、きちんと口頭、文書等で説明し、その後もいつでも質問ができる体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やケース会議等に参加して頂いたり、電話やメール等でいつでも質問や意見を受けられる体制を整えている。	渚園だよりを毎月発行し、家族に送付している。一筆箋に連絡事項や気が付いた事を記入し報告している。また、面会時や家族会で意見を聞くようにしており、電話やメールで意見を伝えて来る家族もいる。利用者家族の意見や要望を事業所の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等だけでなく、常に意見や提案を交し合っている。	管理者がいつでも、どこでも意見や提案が言える環境づくりをしている。職員会議で意見や提案があればレジュメに記入し提出するようにしている。職員の意見や要望を事業所運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力や実績、勤務状況をきちんと把握し、働きやすい環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行ったり、外部研修に参加したりして、各々が技術を向上している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着サービス協議会に加盟しており、研修、勉強会に参加するなどし、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネと連携を取り、本人の様子を把握している。入居前に、本人に来園していただき、要望や思い、困っている事、不安な事等を伺って、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族に来園していただき、今まで頑張ってきた事、要望や思い、困っている事、不安な事等を伺って、信頼関係ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族、ケアマネの話をよく聞き、適切な支援を見極め、よりよいサービス利用ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人に敬意と尊敬をもって接し、暮らしを共にする同士の良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人にとって家族がかげがえのない存在である事を充分理解している。本人と家族の絆を大切にしながら、家族と共に、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう、いつでも面会に来てもらったり、電話でお話ししてもらいやすい環境を作っている。美容院も馴染みのところに行く等の支援をしている。	面会時間をフリーにして、夜間でも面会出来るようにしている。家族や知人、友人が気軽に面会できるような環境づくりをしている。馴染みの美容院に行ったり、家族とお墓まいりに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を日常からよく観察し家事やレクレーションを通じて共にささえあい、孤立する人がいないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や電話のやりとりや、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から、本人や家族からの思いや要望を伺い、意向の把握に努めている。困難な場合は、会話や、様子観察、言葉かけの工夫等で本人の希望を把握している。	利用者との会話や表情から、思いや意向の把握をしている。把握が困難な場合は、家族からの意見や希望を聞いて、日常の表情や態度を見ながら思いや意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思いや希望を職員が会話の中で把握するように努め、入居者様の真のニーズの追求を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりによく目を配り、日々変わる体調、心身状況を把握し、出来る事はしていただき、出来ない事は、無理のない範囲で出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、ケアプランを生活の中に活かせるようにケア会議を行い、介護計画に活かしている。	月1回のケース会議で、利用者・家族・関係者の意見を聞いてケアプランを作成している。毎月家族の意見や要望、全職員の意見を聞いてモニタリングを実施し、3か月毎に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果、気づいた事などを個別に記録し、職員間で情報を共有して、ケアや見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域と深いつながりを作っていることにより、安心して散歩や買い物へ出かけることができる。利用者や家族の要望、意見等を聞いて、季節の行事に参加したり、お誕生日の食事会で外出したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの人と会ったり、美容室へ出かけたり、一緒に買い物や食事に出かけたりして、豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が訪問医の往診を受けているが、希望のかかりつけ医がある方は、受診の支援をしている。日々の情報を伝え、適切な医療を受けられるように努めている。	2名協力医から月2回づつの往診を受けている。かかりつけ医の利用者は協力医が往診している。他科の受診や従来のかかりつけ医の受診は家族が対応している。受診に職員が付き添う場合は家族との連携を強化し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から本人の体調を把握し、看護師に伝え、看護師が情報を確認する。必要であれば、かかりつけ医より支持をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、早急に本人の情報提供を行い、病院関係者との情報交換に努めている。また、そうした場合に備えて、日頃から病院関係者との良好な関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で、重度化した場合の支援について、本人、家族と話し合いをしている。実際そのような場面になれば、変化があった際に随時話し合い、家族、医者、介護士が協力して、本人が安心して過ごせるように支援する。	入居時に重度化した場合の支援について説明をしている。重度化した場合は、協力医・利用者・家族・事業所で話し合い支援内容を決めている。看護師を講師に、重度化した場合や看取りについて研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員から救命講習を受けたり、研修で習ったことを職員間で伝え合っている。緊急時に対して話し合い、実践力を身につけるよう、心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中や夜間等、様々な時間帯の災害を想定して訓練を行い、効率よく安全に避難できるように確認している。また、地域との協力体制も築いている。	年2回火災と地震を想定した訓練を消防署の協力で行っている。海の近くの事業者で、津波に備え、地域との協力体制、避難場所の確認や避難誘導方法について職員間で常に話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から言葉遣いには注意している。特に、トイレや入浴時には羞恥心に配慮し、一人ひとりの尊厳あるケアに心がけている。	常に利用者の立場に立って接し、言葉遣いや声掛けに気をつけている。入浴時やトイレ誘導時の声掛けや見守りを重視し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係の構築に努めている。本人が気軽に思いや要望を表したり、自己決定ができるような環境づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、本人の希望を重視している。希望に添えない場合は、必ず説明し、了承を得るまで、話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの生活が維持できるように、化粧品を揃えたり、定期的な散髪、日々の髪型のセットなど、その人らしい身だしなみやおしゃれに心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広告を見てメニューを考えたり、一緒に買い物に行き、能力に応じて食事の準備、盛り付け、後片付け投下楽しみながら出来るように支援している。	利用者の希望を聞いて献立を作成している。食材は職員が交代でまとめて購入をしている。利用者は、調理・盛り付け・配膳・下膳・後片付けまで、利用者の出来る範囲で手伝いをしている。職員も一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、栄養バランスを考えながら献立をきめている。一人ひとりの状態や食べる量と形態を把握し、職員間で情報を共有して、ここにあった支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力に応じて自発的に口腔ケアをして頂いている。同時に口腔内の状態をチェックし、不具合などがあれば、随時歯科往診の依頼をしている。義歯の方は、夜間預かり、洗浄液につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の使用にて、一人ひとりの状態を観察し、排泄パターンを把握している。トイレで排泄することを基本に支援しており、おむつは使用していない。	利用者の排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導により、トイレで排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に気を付けたり、乳製品、食物繊維の多い食品等を取り入れることにより、便秘予防をしている。また、毎日の運動や腹部マッサージにより、便秘の解消に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はおおむね決まっているが、毎日でも希望により入浴できる体制をとっている。入浴が楽しめるように、個々に合わせて対応をしている。	ユニット毎に交替で週に3回入浴をしている。利用者の体調や希望に添えるように毎日入浴できるようにしている。また、季節感のある菖蒲湯やゆず湯を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、昼夜逆転のない生活習慣づくりに努めている。一人ひとりの生活習慣、体力などに合わせ、気持ちよく眠ることができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おくすり手帳を一人一冊作り、個々の内服薬の作用、副作用について、随時確認している。状態の変化があれば、看護師、かかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴に合わせた楽しいみ事を考え、お誕生会を行ったり、生花、茶道の先生に来てもらって、気分転換活動に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は近くの海岸まで散歩をしている。個々の希望を聞き、食料品やお花を植えるために土や肥料を買いに行ったり、外食や外出をしている。毎年入居者、家族、職員とで、一泊旅行に出かけている。行き先は入居者様の希望で決まる。	ヨットハーバーや近くの公園への散歩をしたり、季節の花見や外食買い物に出掛けている。毎年利用者と家族、職員で希望を聞いて一泊旅行に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は、家族と話し合いのもと、お小遣いを持っており、いつでも使えたり、自己管理ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話ができる方は、いつでも自由に電話がかけられるようにしている。また、出来ない方は、職員が介助し、会話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月に1度、生け花の先生にきていただいて、生け花教室を行い、ご自分で行けていただいたお花を、部屋に飾っている。気を基調とした内装であり、和紙のブラインドで光を和らげ、心地よさを提供している。	玄関横の畳の居間は居心地の良い寛げる場所になっている。天井が高く採光の良い明るい居間兼食堂である。季節を感じさせる生け花や利用者の手造り作品、行事写真が廊下に掲示してある。廊下がとても広く居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、椅子やテーブルを置き、居場所の提供に心がけている。テレビ前のソファでは、気の合う者どうして、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使っていた馴染みのタンスや鏡台、写真等を持ち込んでもらい、慣れ親しんだ環境づくりをしている。部屋の中にはボードを用意し、お気に入りの写真を貼ってもらっている。	エアコン・ベットは備え付けで、利用者が希望するタンス、衣装ケース、机、イス、家族の写真、利用者の作品等が飾られている。掃除も行き届き清潔で、整理整頓され、居心地の良い居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握し、自立に向けた支援を心がけている。椅子も、ひじ掛けが必要な方にはひじ掛け椅子を用い、本人が自分で食事ができるように支援している。		